

3年間の英国棧橋巡りを終えて

－英国の棧橋から学んだこと－

平成 28 年 3 月



PIERS 研究会

改めて日本への提言

わが国の地域創生を図る大きな戦略の一つとして、沿岸各地の都市が元気を取り戻すことが重要である。これら沿岸都市の活性化のため、当 PIERS 研究会は 2014 年に、従来わが国にはない新たな発想として栈橋とエスプラナードを導入した海岸づくりを提言した。この 3 年間に英国の栈橋をほぼ全数踏破した成果を踏まえ、改めて次の 4 点を提言したい。

1. 暮らしの舞台となる海岸づくり

台風や高波さらに津波など、わが国の海岸が晒される条件は確かに厳しい。しかし沿岸都市の活性化を図るためには、海の脅威に備える防護一辺倒の従来の発想から転換する必要がある。沿岸都市の貴重な財産である海や海岸の魅力を、日常の生活で満喫できる海岸づくりが重要である。海岸の防護と利用を両立させた沿岸都市の新しい海岸づくりを目指すべきである。

そこでは沿岸都市での暮らしが海に背を向けることなく、海が暮らしに寄り添い、暮らしの豊かさを広げてくれる存在になって欲しい。毎日の生活の中で海や海岸がより身近で、かつ新鮮な彩りを加える空間であって欲しい。このような新しい海岸づくりへの具体的なアプローチとして、英国の栈橋とエスプラナードは多くの示唆を与えてくれる。

まず栈橋の導入は、海岸から海を見るだけであった日本人の海との付き合い方に歴史的な変化をもたらすであろう。海の上をのんびり歩き、何物にも遮られずに潮風を浴び、また慣れ親しんだ自分の街を海から眺める。海上で食事を楽しみ、夕日に見とれる。海と云う大自然の非日常的な空間が一举に身近な存在となるに違いない。

またエスプラナードは、海からの脅威を防ぎつつも人々が海を楽しむ海岸の散策路であり、これまでの日本にない海岸づくりである。海に沿ってジョギングし、犬を連れて歩き、時に浜辺に降りたつ。子供たちと遊び、ベンチで本を読み、知り合いと声を交わす。沿岸都市の暮らしを豊かにし、人を中心とする海岸づくりの象徴的な取り組みとなる。

古来よりわが国には健康のために海に浸かる潮湯と呼ばれる風習があった。暮らしと海との繋がりを取り戻し、沿岸都市に暮らす喜びや豊かさを実感できる状況をつくるのが地域の活性化にとって戦略的に重要である。成熟社会にふさわしい沿岸都市のインフラとして、発想を新たに生活の落ち着きと質を高める場としての海岸づくりが強く求められる。

2. 年間を通して人々が滞在する海岸リゾート

質の高い海岸づくりは、沿岸都市に暮らす人々の生活を豊かにするだけでなく、近隣の地域や大都市圏からも人々が訪れる海岸リゾートへの発展可能性を高める。それも夏だけの集中豪雨のような利用でなく、落ち着いた休暇を楽しむ通年型で滞在型の海岸リゾートを目指すべきである。高齢化が進む日本社会が新しいライフスタイルを体験、実践する場となるだろう。

日本の半分の人口しかない英国で、多くの海岸リゾートが全国各地に成り立っていることに学びたい。少ない人口でも、四季を通じて長期の休暇を楽しむことにより、地方の沿岸都市の経済を潤している。成熟社会を迎えた今、質の高い生活づくりに個人が正面から取り組むことこそ、少子高齢化の日本が縮こまることなく、さらに輝いて発展していく途ではないだろうか。

海や海岸での多様な過ごし方はもとより、周囲の山々や田園さらに名跡や城郭など沿岸都市がもつ恵まれた自然や歴史を、ゆっくりと楽しむライフスタイルを実現していくべきである。慌ただしい日常生活を離れ、落ち着いた日本列島の良さを心から噛みしめる滞在型の休暇を、日本の社会も志向する時である。またそうした変革を通して地方の活性化を図ることが重要である。

こうした滞在型の休暇を拡大するためには、安価に宿泊できる施設の提供が非常に重要である。社会問題となっている空き家、空き部屋の活用も含め、自治体や市民、民間が協力して取り組む必要がある。また地域内を自動車に頼らず自由に巡ることができるよう、例えば乗り捨て型のレンタサイクルなど、公共交通を補完する使い勝手のよい交通手段の提供も重要となる。

3. 街づくりをリードする海岸マスタープラン

このように人々の生活の場としての海岸、リゾートの舞台としての海岸を形成していくためには、地域に暮らす人々が自分達の海岸を見つめ直し、将来のあるべき海岸の姿を構想することが何よりも重要である。地域の人々が自ら考え作り上げる沿岸都市の海岸マスタープランである。海岸への意識、愛着や誇りはこうした作業を通して大いに培われるであろう。

計画の策定では、沿岸都市の海岸について、陸域・水域にわたり詳細な利用と保全のゾーニング、海岸空間の骨組みと拠点のあり方、保全すべき大切な資源や景観、多様な開発の進め方など、多くの課題が検討されなければならない。海の脅威への防護と多様な利用の両立についても、全国一律ではない地域の特徴を踏まえた独創的な対処法が提案されるだろう。

またマスタープランでは、栈橋やエスプラナードが新しい発想として大きな役割を發揮するであろう。新規に整備するだけでなく、現在の海岸の不便さや問題点の解消するためにも、既存の海岸施設や港湾施設を改良し有効に活用することが重要である。地元の海岸のもつ魅力や個性を最大限に發揮させることは、ひいては暮らしやすい豊かな街づくりへと繋がっていく。

海岸の防護施設は長い寿命をもつインフラであり、くれぐれも海や海岸の魅力を損なわないよう細心の配慮が求められる。むしろ積極的に海岸の価値を高めるインフラ整備がますます重要となる。とくに防護と利用を見事に両立させるための知恵と工夫が不可欠である。全国で海岸防護施設の老朽化が進んでいるが、その再整備こそ新たな海岸づくりの好

機とすべきである。

またマスタープランを実現していくための取り組みも検討されなくてはならない。海岸の開発や保全、管理や運営をどのように進めていくべきか極めて大きな課題である。自治体や市民、民間の責任分担のあり方、市民や民間の参画のルールや支援体制、各事業の費用の確保など、市民を含め関係者が全員で検討していく必要がある。

4. 市民や民間の創意と参画による海岸づくり

この新しい海岸づくりの主役は市民や民間である。マスタープランを策定しても、市民や民間の創意と工夫、行動、協力なくしては絵に描いた餅に終わりがねない。マスタープランに盛り込まれた多くの戦略の担い手は市民であり民間である。自治体はこれまで以上に、市民や民間の創意や活動を支援する手立てを充実していく必要がある。

栈橋やエスプラナードの基本部分は公的な整備を行うとしても、そこで人々が海を楽しむために必要となる施設の整備や運営は、市民や民間に委ねることが基本となる。これら施設を最大限に活かし利用する主体はあくまでも市民や民間である。また海岸の施設や環境を良好に維持していくための活動や財源の確保にも、こうした市民や民間の知恵と参画が欠かせない。

このため現行の海岸の利用、活用に関する規制を見直し、緩和していく必要がある。とくに海岸の占有許可など各種制度の適用基準の明確化など、誰にも分かりやすく活用しやすい状況を整えるべきである。一方で環境や景観など海岸の広範な保全に関して新たな規制も必要となろう。これら海岸づくりの制度についても市民と協力した創設や周知の活動が欠かせない。

暮らしの中で海や海岸を多面的に楽しむためには、幅広い分野の市民グループやNPOの協力が不可欠である。また休暇のために滞在する人口を増やすためにも、地元の魅力を一番よく知る若者から年配者まで、こうした活動に積極的に参加してもらい、さらに各プログラムを相互に連携する企画、運営が重要となる。そのオーガナイザー役を地域の中に育てる必要もある。

一方、海や海岸を利用する人々にも、安全に対する自己責任を改めて考えてもらうことが重要である。もちろん所要の安全対策は不可欠であるが、行き過ぎた対策は見直すべきである。いろいろな啓発活動とともに、人々が地元の海岸に親しく接し、また海岸のあり方を考える中で、海での安全に対する新たな意識が醸成されることを期待したい。

2016年3月